

CREATE KINKI **クリエイト きんき**

〔テーマ〕水都大阪 - 川と共に生きるなにわのまち -



JCCA Japan Civil Engineering Consultants Association
社団法人 建設コンサルタンツ協会 近畿支部

クリエイト きんき 〔第6号〕

〒540-0005
大阪市中央区上町A番12号(上町セイワビル)
TEL. 06(6764)5891 FAX. 06(6764)5892
<http://www.kk.jcca.or.jp>

発行日：2004年1月15日

ご意見、お問い合わせは、create@kk.jcca.or.jp まで



CONTENTS

クリエイト きんき

第6号

テーマ **1** 水都大阪 - 川と共に生きるなにわのまち -

特集

- 総説 **1** 水と大阪の成り立ち
- 6** 心齋橋 - 大阪町人が支えた町橋 -
- インタビュー **10** 「Re：水都」 - 水都再生 -
- 取材 **13** 水陸両用バス試乗レポート
- インタビュー **14** 落語と川

地域紹介

- 兵庫 **18** 「武蔵」の生誕の地を訪ねて
- 京都 **19** 京都の大仏と秀吉

会員交流

- 20** フラメンコ

その他

- 21** 名簿



中之島の中心部。手前が堂島川。緑の御堂筋が淀屋橋から真っ直ぐにビルの谷間を抜けていく

水と大阪の成り立ち

和建技術株式会社
技術顧問 藤原 敏朗

大阪周辺の水域の事業に携わった経歴、研究履歴

近畿地方建設局 淀川ダム統合管理事務所 所長
近畿地方建設局 広報官
株式会社 治水科学研究所 代表取締役 所長
淀川100年史編さん委員 (1972 - 1974)
著書：淀川周辺水域の今世紀の変遷 (1970)

難波は、いつの頃から

5世紀頃に掘ったとされる「難波の堀江」の位置は、おそらく、上町台地の北端（大阪城の北側）を通過するルートです。その頃、上町台地の東方には湖があり、古・大和川が流れ込んでいました。この湖の出口を切り崩して、排水路と運河とを兼ねる堀江を造ったのです。この頃に名が現れる「難波津」等の港は、湖周辺の水域に在ったので、海路とのコンタクトを維持することが重要でした。

その後も、難波津は、位置は多少移動しながら、飛鳥朝の玄関口として、遣唐使等の外交使節の発着港となります。天平年間には、インド僧菩提僊那、唐僧鑑真が到来しています。当時の上町台地の麓の河畔は、大陸の文化や生活様式に直接触れることができる華やかな場所であったのではないのでしょうか。

三国川航路が興り、難波津は寂れる

百濟王家の血をひく桓武天皇は、母方の郷里交野の洪水被害を減らすために、淀川の対岸堤防を切り、淀川の流れの一部を三国川（神崎川）へ落とすよう、延暦4年（785）に摂津職・和氣清麻呂に命じました。この水路が、摂津国神下梓江鮭生野を掘り三国川へ通した、とされる運河です。神下梓江が何処なのか判りませんが、航空写真は、淀川右岸の江口から味生に至り神崎川へ通じる水路痕跡を鮮明に捉えています。以後、海路から京都への航路は、三国川淀川ルートとなり、難波津は寂れ、789年に摂津関は廃止され、代わって、江口、神崎、加島等が栄えていきました。

窪津は古えの難波津？：意のままにならぬ河水

三国川航路が開発されてから、大阪へ入る船は、いったん三国川を上り、江口から淀川を下って難波の窪津に停泊する「北からの下り」が通常ルートとなり、京都の要人達も下りルートで上陸するようになり、摂津国府も窪津付近に移って行きました。窪津が最も栄えるのは、この地を支配していた渡辺一文字輩が活躍していた源平騒乱期で、当時は、「渡辺の津」とも呼ばれていました。渡辺一文字輩とは、源頼光の四天王の一人・渡辺綱や壇の浦で建礼門院を救い上げた渡辺昵等の誉れ高き渡辺一門の総称です。

9世紀から15世紀の治水技術は未だ幼稚で、しかも畿内は、荘園、領地に分割統治されていて、もっぱら地先ごとに、輪中堤、環濠、段倉等の自衛の水防に躍起になっていました。囃、垣内等の地名は、その名残です。

堀江のはじまり：秀吉は土木の天才

賤ヶ岳の合戦に圧勝した秀吉は、新たに国割りを行い、秀吉みずから大阪に移り、天正11年秋から大阪城の普請に着手し、天正13年（1585）春に本丸を完成させています。

秀吉は、京都から御所や寺院を移転して、大阪を首都にする構想を抱えていて、首都にふさわしい豪壮な城・整然とした合理的な町づくりに取りかかります。淀川に天満橋を架け、対岸に東天満と西天満の新市街地を開発し、生玉と天王寺に寺町を開き、慶長2年（1597）からは、中屋敷替といわれる城下町改造を行い、京都伏見の大名屋敷を大阪へ移転しています。また、船場を城下町に組み入れ、広い街路および、太閤下水と呼ばれる廃水溝を配置し、町屋を桧造二階建てに統一して、整然とした町景観を造りあげました。

築城は、その間も続けられ、文禄3年（1594）からは城郭全域を取り囲む惣構堀に着手し、4年かけて、城郭の西辺をつかさどる東横堀川、城郭の南辺をつかさどる空堀を完成しています。

秀吉は、大阪築城と平行して、伏見城の築城にも着手していました。伏見城の構想は、聚楽第の実質をも兼ね備える豪壮なもので、淀、伏見周辺の沼沢地を見違えるばかりに整備して、京都中心部への直通陸路を通し、文禄5年（1596）には枚方から大阪を結ぶ15280間（29km）の文禄堤（淀川左岸堤防）を完成して京阪間の直通陸路を開通させています。（このルートは後に京阪国道となり、昭和33年まで利用されていました）

大阪城の落成は、秀吉の死後3年目の春（1601）になりますが、彼が灯した町づくりの明かりはその後も消えず、豊臣期が終焉する1615年までに、4本の幹線堀江（東横堀川、西横堀川、道頓堀川、阿波堀川）が出来上がりました。

大阪城の再建：ほろ苦い追憶は消し去られ

元和元年（1615）真田、毛利、後藤などの名だたる武将が消え、豊臣の血が絶たれて大阪夏の陣が終わると、松平忠明が町の復興に専念しました。元和5年、大阪は幕府の直轄地になりました。

船場を北と南に分け、大阪三郷（天満、北、南）の組名が登場しました。この頃の市中の堀江には、すでに、上荷船1592艘、茶船（小型船）1031艘が登録されています。南船場の西側に隣接する難波領はまだ広大な農耕地でした。

元和6年、二代將軍秀忠は、築城の名君藤堂高虎を総指図役として、大阪城の再建にとりかかりました。豊臣期の本丸を覆い隠す大量の盛土を施して、海拔33mの基礎土台を築き、その上に高さ58mの本丸を完成（寛永5年、1628）しました。有名な桜門の樹形巨石は、この時に運び込まれたもので、豊臣期のものではありません。本丸、二の丸の規模は、豊臣期のをやや凌駕しますが、城郭の規模は、四分の一になりました。



豊臣朝の大阪城



平成の大阪城

浮かび上がる「水都の原形」：商人の町づくり

大阪城の再建中に町の整備も着々とすすみ、商人達は競って、堀江開削の認可を大阪町奉行所から取り付け、続々と堀江を造って行きました。豊臣期に造られた西横堀川に延伸部が加わって、幹線堀江4本が完結し、下船場に新たな6本の堀江が加わり、寛永7年（1630）には水の都の原形が浮かび上がりました。

東横堀川	文禄3年(1594)	豊臣秀吉
西横堀川	元和5年(1619)	豊臣、徳川
道頓堀川	元和元年(1615)	成安道頓
長堀川	寛永2年(1625)	岡田心斎
江戸堀川	元和3年(1617)	松平忠明
京町堀川	元和3年(1617)	伏見商人
海部堀川	寛永元年(1624)	淀屋
阿波堀川	慶長5年(1600)	阿波商人
薩摩堀川	寛永7年(1630)	薩摩屋仁兵衛
立売堀川	寛永3年(1626)	伊達商人

堀江の名称は、造った人物の名前、あるいは商人グループの名称と呼ばれていました。長堀川（伏見川）と京町堀川（伏見堀）は京都伏見の商人達が掘り、立売堀川は伊達藩出入りの商人達が掘り、江戸堀川は大阪夏の陣の後に町の復興に専心した松平忠明が掘ったものです。

運河水路として利用される堀江は、火災の類焼を防ぐ重要な防火帯であり、消火用水の供給源でもありました。また、清水域には屋形船が浮かび、浄瑠璃や笑い声が洩れる風流な一隅もありました。下水溝の吐き出し水域にもなっていますが、「しもごえ」は、特定の堀江端に設けられた「汲み取り場」に集められていて、近郷の百姓衆が汲取船で引き取りに来る仕組みになっていました。

これらの堀江網は、市中の運河水路として、以後300年余り廃れることなく利用されてきました。汽船が遠洋航路を独占する時代になっても、市中運河の小船は繁忙を極め、第二次世界大戦終結（1945）まで商工業のまち大阪の動脈網でした。

淀川の航路は民のもの：三十石船

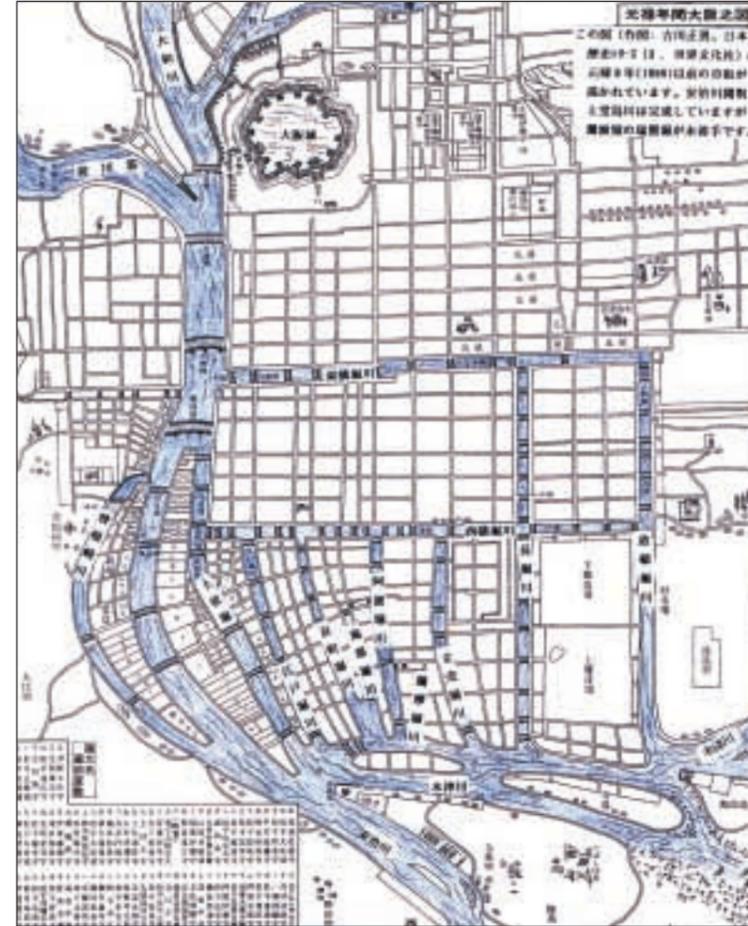
三十石船は、天正初期から現れ、やがて過書船の特権を得て、大阪八軒家から京都伏見港までの運行が始まりました。17世紀になると、年貢米等の物資輸送や参勤交代等の従来業務に加えて、一般庶民が利用する客船（定員26人）が繁盛するようになり、淀川航路はひしめき合うようになりました。

曳き綱の掛け声と船頭唄を聴きながら、「上り一日、下り半日」の悠長な旅ですが、ノミヤシラミにたかられながら、船中禁酒の長旅でした。

最盛期の乗船場は、八軒家、道頓堀、東横堀、淀屋橋の4ヶ所で、伏見港にも4ヶ所ありました。伏見の過書船の大口船主である角倉と木村の一統は、過書奉行として絶大な権力に浸り、賄賂にまみれ、容赦なく運賃値上げを強行しました。その非道に、商人達の怒りが燃え上がり、信望のある炭屋の勘次が立ち上がりました。商人達は、「一命を懸けた勘次の計画」と行動を共にし、権力者どもの非道を暴いたのです。当時の伏見は、才に長けた京商人達が大阪へ繰り出す絶好の場所でした。

お触れ書き時代の河内：農民の義挙

都市が栄える傍ら、17世紀の河内農民は、幕府の農民統制によって、労働力としての地位に縛りつけられ、「朝起きを致し、朝草を刈り、昼は畑の耕作にばかり、晩には縄をない・・・酒、茶を買い飲みまじく・・・女房はおはたを稼ぎ、夕なべを仕・・・」といった状態でした。しかも、悪水排除と洪水氾濫に苦悩する日々でした。こうした農民の窮状を代弁する庄屋達が現れはじめました。寺方荘の庄屋喜左衛門は独断で排水樋を築いて礫に処せられ、今米村



の庄屋九兵衛は大和川付け替えを断念して依羅池に身を投げ、中島村の庄屋3人は大水道を築いて切腹しました。この人達の志が日の目を見るのは久しく先の時代になります。

見えてきた「都心の全容」：川村瑞賢の川普請

大阪市内の淀川堤防が寸断される大水害が続いて起こり、天和3年（1683）幕府は、川村瑞賢を伴って巡視を行いました。瑞賢という人物は、貧しい境遇から身を起し、天賦の才で大富豪になり、書を著し、多くの学者を育て、幕府からその才を買われていました。瑞賢の詳細な巡視にもとづく治水意見書は衆議一決し、川普請は瑞賢に一任されました。

貞亨元年（1684）、木津川尻の整理及び安治川の開削を皮切りに、長柄分流点の整備及び島島川尻の浚渫等を行いました。この川普請によって、淀川（大川）の流量が安定し、舟運は安全になりました。また、大川沿岸の土地を整頓し、さらに川尻デルタに福島新地を開いて、貞亨4年（1687）に瑞賢の1回目の川普請は終了しました。

元禄10、11年（1697 - 8）に2回目の川普請が行われました。10年前に施工した川普請の成果を、81歳の瑞賢が自ら検証したのですが、福島新地には3600軒余の家屋が

立ち並び、川尻には川口新田とよばれる開発が次々に入植していました。瑞賢は、補足工事として、難波領の中央に堀江川（瑞賢堀）を新しく開削しました。この地域は後に、最も大阪らしい、情緒豊かな町に育っていきました。

瑞賢の川普請一覧 貞亨元年～4年(1684～1687)

木津川尻の整備 安治川の開削	川尻デルタの整理 九条島の開削 1600間の新水路の完成
安治川沿岸の開発 中津川尻の整備	福島新地の開発 四貫島、伝法口の浚渫
長柄分流点の整備 大川の整備 堂島川の整備	大川と中津川の流量配分 天満、毛馬間の河岸の整理 下流の砂州の除去、中之島河岸の整理、安治川へ接続
曾根崎川の整備	護岸と900丈の新道の開設
堀江川（瑞賢堀）	難波領を貫く堀江川を開削

栄える「水の都」：17世紀の商い、流通等

17世紀末葉から18世紀初葉にかけて、江戸では、爆発的に人口が増加していました。しかし、物資供給を担うべき背後地の整備が遅れていて、大阪からの船積みが必要な補給ルートになっていきました。また、資金の調達流通を願う幕府や商人達にとって大阪は、よく整備された最大の市場でした。大阪は全国的な金融、商い、流通の中心地へと発展していきました。

阿波の藍、讃岐の砂糖、紀伊の木材、伊丹の酒等の近隣諸国の物産のみならず、尾張三河の木綿、加賀の銅等の遠隔諸国の資源が大阪の堀江運河に集まり、町で精製あるいは加工され、回船に積み替えられて江戸へ向かいました。

市中の間屋は、正徳年間（1711-15）の資料によると、大阪の菱垣回船問屋10軒、江戸の樽回船問屋5軒をはじめ諸藩46ヶ国の国問屋1570軒が営業していました。市中には、3500隻余の運送船がありました。

大商人も育ちはじめ、酒造の鴻池、南蛮吹き（銅の精錬法）の宗家住友、中之島を開いた淀屋、等の名が現れています。文化面でも、井原西鶴や近松門左衛門等の文化人を輩出しています。

市街は、東西方向の通り（幅4間）と南北方向の筋（幅3間）によって区画割りされ、通り（筋）と下水溝が交互に、20間の間隔で配列されています。この区画の中に路次を引き込んで町屋が建てられていました。

三郷（天満、北、南）の人口推移

寛永年間（1624 - 1643）	279,600 人
寛文年間（1661 - 1672）	407,900 人

少し遅れて開削された堀江川（瑞賢堀）の周辺地域は、文芸、芸能の町として特色のある繁栄軌道を歩みはじめていきました。

デルタに文明の灯がともる：西欧の小都市

天満が焼けた大塩平八郎の乱を皮切りに、時代の局面が尋常ではなくなります。ペリーの黒船の噂に続いて、大阪湾で大津波（1854）が起こり、多くの人が死に、堀江の橋梁が次々に破損しました。その興奮が覚める間もなく、同年、ロシア軍艦ディアナが安治川を遡上する「天保山の黒船騒ぎ」がありました。以後10年間は、開国と攘夷との狭間で、市民は幾つかの事件を体験し、明治を迎えました。

通商条約にもとづいて、外国人居留地が川口に開設されました。川口は、安治川と木津川の分流点に位置する夷島（えいしま）の上流端に突き出た小さな一画（26区画）です。

外国人居留地は、各国の領事が裁判権を持つ治外法権区域であり、行政も自治運営されることになりました。西欧の都市計画によって広い街路が配置され、整然とした街区が割られ、各国が競って、領事館や商館を建て、後にマリア聖堂も完成し、短時間で西欧の小都市が誕生しました。ガス灯の光が息をのむほど美しい此の小都市は、市民にとって、西欧の文化、生活様式、言論、教育等に直接触れることができる文明開化の発信源となりました。プール女学院など幾つかの名校も、此処で築立ちました。以後、20世紀を迎えるまで、大阪を赤々と照らし続けるのでした。

やがて川口波止場も完成し、外国船が入港するようになりました。安治川筋の航路環境については、内務省のお雇い工師エッセルが行った詳細な調査資料が残っています。

干潮	喫水3尺5寸 喫水2尺5寸	1里14丁 1里18丁	運上所(税関)迄 外国人居留地迄
満潮	喫水6尺5寸 喫水5尺5寸	1里14丁 1里18丁	運上所(税関)迄 外国人居留地迄

デレーケの低水工事：オランダ青年技師に学ぶ

明治5年、日本政府の要請に応じて、オランダの土木技師ファン・ドールンが来日し、毛馬および中之島の山崎のはな端と西のはな端に量水標を取り付けました。彼は、「治水要目」等を著し、淀川に関しては「粗朶水はね工の説明」、「航路の改良」等の具体的提案を行いました。新たに6人の工師が到着し、淀川の治水は、エッセルが計画し、デレーケが現場技術を指導しました。

当時、淀川には86トン積みの汽船も就航していましたが、水深が浅く、実績40トンで運行していましたが、それでも、随所の浅瀬で難航し、常時、



淀川の川蒸気

浚渫船が待機して航路の維持にあたっていました。

このため、「水深5尺の確保」を目標とする低水工事が計画され、明治7年に工事が始まりました。工法は、粗朶水はね工を櫛の歯のように両岸から突き出し、流れを縮流し、水位を上昇させ、水深1.5mを確保します。その時の流速が作り出す平衡河床が、計画河床なのです。

言うは易く、難しい注文です。二人は、入念な実地試験を何度も繰り返して行っています。「現場を眼底に収めよう」とするオランダ技師達の姿勢は、私が失念していた水工技術の原点を蘇らせてくれました。一方、日本人官吏達が飲酒に浸り、公金を遊興に当てる姿勢を見て、オランダ人技師達は嘆息していたのです。

工事は進捗し、ついに44kmの航路全区間が完成し、汽船が自由に航行できるようになりました。大阪市内では、天満から上流河道に粗朶水はね工が施工されました。

粗朶水はね工はすこぶる好評で、全国の大河川に普及していきました。淀川の粗朶水はね工は後に、上層を石材で覆い「石積み水制工」となり、現在でも残っています。隣接する水制工間には「わんど」とよばれる池が自然に出来上がり、独特の水域環境が生まれています。

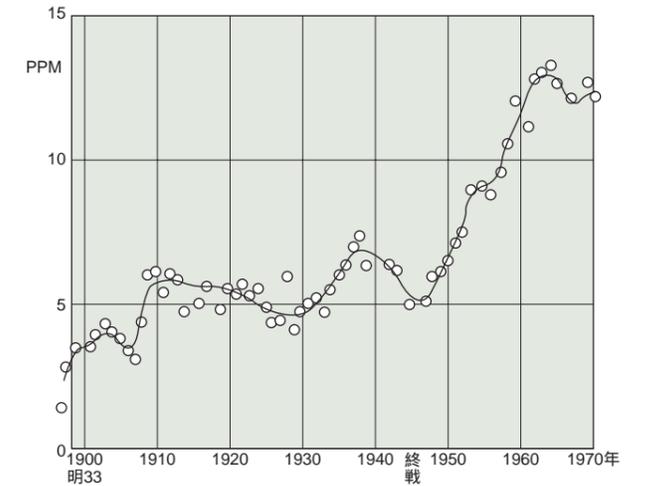
淀川汽船は、約40年間賑わい、明治39年には、年間乗客数6万人、貨物76,500トンを運んでいましたが、京阪電車が開通（明治43年）して急速に寂れ、撤退しました。

上水道：疫病から解放、伝統の水質資料が語る

大阪で流行した疫病コレラの発生は、1822年が最初で、1858年からは断続的に流行を繰り返していましたが、1879年に7391人が死亡する騒ぎとなり、感染を恐れて入港船舶が激減する事態にまで発展しました。その後も流行が終息する気配がなく、波状的に流行をくりかえしました。大阪市は、横浜水道に従事していたイギリス工兵大佐パーマに設計を依頼し、内務省お雇い工師パルトンの意見を得て、大阪水道事業計画を完成しました。明治25年（1892）工事に着手し、同28年（1895）に給水が開始され、市民は、疫病の永年の恐怖から解放されました。

初期の原水取水地点は大川左岸の桜宮浄水場ですが、大正8年に淀川本川右岸に柴島浄水場が完成し、以後、柴島が主力になって行きます。原水の水質試験は、明治28年から行われていますが、大正11年（1922）からは、びわ湖沿岸水域の水質試験も実施されるようになりました。広域にわたって長年積み重ねられてきた伝統ある水質試験資料は、後に、びわ湖・淀川の水質汚濁の進行を世に警告する「淀川水質汚濁防止連絡協議会」を発足させる強力な推進力になりました。

CODの経年変化（淀川右岸 柴島）



大阪水道局水質試験所試験報告より作成

大阪の治水機構が整う：主要な治水設備の履歴

現在、私達が目にする淀川本川の水質試験は、明治31年から同43年に完成し、大川から安治川にかけての河道、護岸は、明治43年から大正11年に施工したものです。

新淀川は、明治33年から開削が始まり、同39年に通水しました。大川を毛馬地点で締め切って淀川本川と分離し、毛馬に洗堰を設けて洪水流は新淀川へ放流し、日常、市内に必要な流量（毎秒 110m³）だけを大川に流す機構が完成したのは明治43年です。

現在、私達が親しんでいる川幅50間の大川、35間の堂島川、25間の土佐堀川は、大正9年に改修したものです。安治川の水深を20尺に掘り下げたのは、大正7年です。

新淀川の河道	明治39年竣工	
毛馬洗堰	明治43年竣工	昭和44年改造
毛馬閘門	明治40年竣工	昭和44年改造
毛馬第二閘門	大正7年竣工	
長柄起伏堰	大正3年竣工	昭和10年廃止
長柄可動堰	昭和10年竣工	
西島水門	明治43年竣工	昭和46年改造
伝法水門	明治36年竣工	昭和38年改造
大川の改修	大正9年竣工	
安治川の浚渫	大正7年竣工	

明治30年代から明治末期にかけては、淀川上下流一貫した改良工事が行われていました。明治37年には、びわこ洗堰が竣工し、湖の調節が可能になりました。以来、大阪は、「巨大な水がめ」の恩恵に浴することになりました。

この時代に構成された淀川の水質試験は、1世紀を経過した今日でも、些かも色あせることなく、諸施設を修理、改築しながら機構全体の治水機能は向上し続けています。当時の技術者の卓抜した企画力を再認識しています。



Profile



1944年大阪市生まれ。京都大学大学院工学研究科終了。大阪市に勤務して神崎橋、川崎橋、此花大橋等の設計や都市計画を担当。現在計画調整局理事（大阪市都市工学情報センター理事長）著書に「大阪の橋」、「京の橋物語」、「橋梁景観の演出」、「日本百名橋」など。共著に「橋のなんでも小事典」、「鉄の橋百選」、「千年都市大阪まちづくり物語」など。

大阪市都市工学情報センター
理事長 松村 博

はじめに

最も大阪らしい橋を一つ挙げよと言われたなら、心齋橋を選びたいと思う。その理由は、町人のまち大阪の人々が自らの手でこの橋を守ってきた点にある。心齋橋は一度姿を消した。その川面に石造アーチの姿を映していた長堀川も40年ほど前に埋め立てられて、橋も取り壊されてしまった。しかし、その残影は大阪人の心の中に生きており、近年、長堀に地下街が建設された際、市民の要望によってその一部が復元された。こうして心齋橋は今なお地域のシンボルとなっているのである。

町橋（まちばし）

心齋橋の歴史は長堀川開削のときまでさかのぼる。大阪に移住した伏見商人数名が協力して長堀の開削と周辺の土地造成を完成させたのは元和8年（1622）のこととされる。心齋橋周辺の町の開発を行ったのは岡田心齋で、堀の開削と同時に兩岸の連絡のために橋を

架けたと考えられる。そして心齋の名はなじみ深い地名となって今日まで記憶されることになった。

江戸時代大坂三郷には200近い橋があった。その内、幕府が管理する公儀橋は12橋だけで、全体の1割にも満たない。大坂の橋のほとんどは、付近の町々が費用を出しあって管理する町橋であった。現在中央区心齋橋筋二丁目に属する菊屋町に町行政に関する江戸時代の文書が多数残されており、当時の町人の生活を知る貴重な資料となっている。その中に菊屋町が管理費を分担していた戎橋、心齋橋などの架け換えや修復時の収支決算簿ともいべき文書（割方帳）がある。これらを参考にすると当時の心齋橋の管理方法や費用負担の方法、また当時の町橋の構造をかなりの程度まで推定することができる。

橋掛り町（はしかかりちょう）

橋の架け換え事業の経過を見ると、大坂町人の自治の形態を垣間見ることができる。橋の維持管理に関する事務は橋筋の町の人々によって行われた。橋

が老朽化して架け換えや大規模な補修の必要が生じると、橋詰の四つ角屋敷の人々が相談をし、工事に関する提案を行う。工事の内容や費用については橋の管理責務を分担している橋元町や橋掛り町と呼ばれる町々の町年寄の同意を必要とした。そして奉行所の許可を得たのち、入札によって材料や工事の請負者を決めた。

現場での工事期間は一カ月ほどで、通行止めの予告看板も用意された。工事中は日頃町の世話をしている町代などが現場を巡視した。工事が完成すると盛大に渡り初めが行われた。紅白の餅などが配られ、作業に従事した人達への祝儀も用意された。最後に町年寄の寄合をもって決算報告がなされ、各町に費用が割り当てられた。

橋の工事費や維持管理費は、橋に隣接した橋元町

が半額をもつ。残りの半分は橋に近い町から順次10%ずつ少なくなるように割り付けられるようになっていた。その範囲は南は戎橋の少し手前まで、北は北御堂の通までであった。また橋元町の分担のうち半分を橋詰の四軒（四つ角）がもった。つまり全体の16分の1ずつを橋詰に店をかまえる有力商人が負担することになっていた。それは大きな出費であったが、一方橋の角地は商売に有利であると同時に、そこで商売をすることは商人の誇りでもあったと思われる。そして橋掛り町の各家への割り当ては、その間口の広さに応じて決められた。江戸時代の橋は当然木橋であったから、20年に1度は大規模な補修が必要であったし、各町は心齋橋だけでなく四方の橋の費用も負担しなければならなかったため、その負担はずいぶん大きかった。



心齋橋橋掛り町範囲 (1)



橋詰の図 (2)

木橋の復元

心齋橋筋は新町と道頓堀を結ぶ大阪最大の繁華街であった。その中心に位置する心齋橋だが、その姿を画いた絵は全くと言ってよいほど残されていない。当時の長堀沿岸は商業ゾーンであったため、橋そのものに話題が乏しかったためであろう。『菊屋町文書』の心齋橋に関する工事記録、周辺の川筋や橋詰を画いた絵などを参考にして当時の心齋橋の姿が復元されたのが右に示す写真である。これは平成9年5月に長堀に地下街がオープンしたのを機に、心齋橋筋商店街が主催して開かれた「心齋橋筋の文化史展」に出品されたものである。



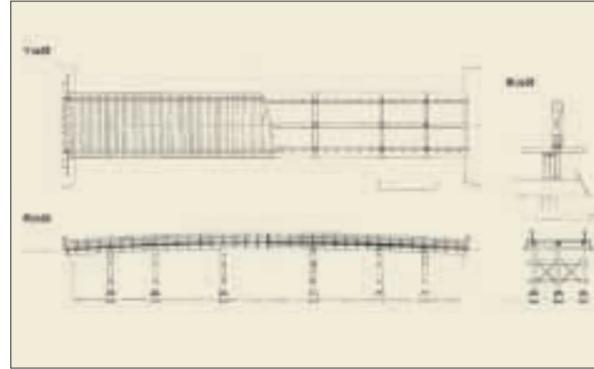
江戸時代の心齋橋復元模型

当時の心齋橋は典型的な木橋で、その構造はおよそ次のようなものであった。橋長は18間ていど（約35m）で、幅員は全幅2間半、有効で2間強（約4m）であった。スパン割は7径間で、径間長は2間～4間（端径間2間、主径間4間）と推定される。また、耳桁には角材（1尺4寸×7寸）、中桁には丸太材（末口1尺）が適用され、主用材として杉、桧、松などが用いられた。

弓形トラス

大阪では明治3年に高麗橋が初めて鉄橋になったが、その後鉄橋の導入が進む。心齋橋は明治6年、木橋にかわってドイツから輸入された鉄製の弓形トラス橋が架けられ、人々の注目を集めた。橋長は36.7m、橋脚を設けず、川をひと跨ぎする形式は大変珍しいものであった。工事中の橋を見た当時の人々は太鼓橋のようなものできあがると思ったらしい。できあがってみると歩くところが平らであったのでまた驚いたようだ。明治の初めは公共の制度が十分に整っていなかったため、この鉄橋の費用もかなりの部分が地元負担であったと考えられる。心齋橋の鉄橋は当時の人々の人気を集め、数々の錦絵や名所案内図に画かれている。

このトラスも明治41年末、長堀の北岸に市電軌道が敷設されたのと時期を合わせるように、石造アーチ橋



復元模型図



「心齋橋写真之図」(3)

に架け換えられることになった。撤去されたトラスはその後、境川運河に架かる境川橋として利用され、さらに昭和3年には大和田川の新千船橋へと次々とその役割を与えられてきた。現在は明治初期の輸入橋梁を保存しようという人々の声に守られて、鶴見緑地に緑地西橋という公園連絡の橋として姿を整えられ、明治初期の歴史を現代に伝えてくれている。



心齋橋鉄橋



緑地西橋

石造アーチ

明治42年11月に完成した心齋橋は、大阪では最初にして唯一の石造アーチ橋であった。西欧風の意匠を持ち、大阪最大の繁華街のシンボルとして人々に親しまれた。中央の橋脚の上には、ギリシャ建築を思わせる柱頭飾りを持つ2本の石柱が建てられ、バルコニーが支えられていた。高欄の欄間に入れられた四葉の葉形飾りがこの橋のデザインを特徴づけている。なお石材の大半は愛媛県越智郡宮窪村産の御影石が使われたという。また照明には8本のブロンズ製のガス灯が建てられ、話題を呼んだ。

この石橋は大正、昭和と50数年にわたって大阪ミナミの象徴として親しまれてきた。しかし二連のアーチの影を川面に映していた長堀は、戦災の瓦礫で半ば埋められていたこともあって最終的には昭和39年に埋め立てられた。その一部に地下の大モータープールが建設され、地上は広い幹線道路になった。それに先立って心齋橋は撤去されたが、心齋橋を残そうという地元の人達の強い声上がり、長堀通に新しく歩道橋が建設されたとき、その高欄に旧橋の石造りのものがそのまま使われた。名物のガス灯も近年までガスの炎を燃やし続けてきた。

御堂筋から堺筋にまたがる長堀通大改造が完成した。京橋からの地下鉄が平成8年12月に開通し、続いて平成9年5月に1300台の地下駐車場と長さ730mの日本最大の地下街がオープンした。そして石造りの心齋橋が道路の中央部だけではあるが、地下街を跨ぐ形で復活した。幸いにも保存されていた高欄やガス灯をできる限り現地に戻し、昔の心齋橋のイメージが復元された。長堀通という大阪の新しい東西軸と御堂筋、心齋橋筋などの南北軸との結節点に位置する復元心齋橋は、今後ともこの地域のシンボルとして大切に守られていくものと思われる。

参考文献

- ・心齋橋商店街振興組合『心齋橋筋の文化史』平成9年5月
- ・松村 博『大阪の橋』1987年5月
 - 1 心齋橋橋掛かり町範囲：「摂州大坂画図」
 - 2 橋詰の図：「花の下影 - 幕末浪花ののくいだおれ -」（清文堂出版）
 - 3 「心齋橋写真之図」：長谷川小信画、大阪市立博物館蔵



心齋橋石橋（明治42年完成）



心齋橋歩道橋（昭和39年完成）



現在の心齋橋（平成9年完成）

— 水都再生 —



Profile

須知裕曠 (すち やすひろ)

1947年3月大阪市十三生まれ。
1979年大阪市都島区で「クッキングパブ
とうもろこし」を開業、55歳になった
2002年廃業し、職業を「NPO」とし、
現在に至る。趣味は「まちおこし」。
ふるさ都・夢づくり協議会 会長。
NPO大阪・水かいどう808 理事長。
NPO大阪水都再生基金 理事長。



「ふるさ都・夢づくり協議会」は、所属NPOなどを通じて、街づくり、環境問題など幅広い分野で社会活動に取り組んでおられます。最近では、2004年8月に開催が予定されている道頓堀川水泳大会や、真珠貝の養殖などユニークな取り組みが目立ちますが、そのような活動をはじめられた動機とか目的を中心に話を聞かせてください。

第一のこだわり「日本初」

居酒屋のおちゃんが日本酒作り？

私は十三の出身で、子どもの頃は淀川が遊び場でした。何度も川に落ちたりしましたが、よう遊びましたわ。川や水に対してそれが潜在意識にあるんでしょうかね。最近まで21年間居酒屋をやっています、1987年には「ほんものの日本酒を味わう会」というのを立ち上げて日本酒を消費者の立場から作るということをしました。米作りから酒作りまで一貫して我々の手でやりました。もちろんお蔵さんの協力は得ていましたが、日本で初めてのことでした。私のこだわりの第一は「日本初」なんです。

そのときに問題になったのは「食管法」です。その食管法をクリアするために農協にも話に行きましたし、いろいろやりました。それでできたのが「未知の酒」で、その後、地酒ブームがやってくるんですが、大阪にも地酒があるということであるいろいろなプロデュースもしました。大阪市の協力を得て、OSAKA 咲かそ「人」「街」「夢」を3本セットで長龍酒造から発売したりしましたが、大阪みやげとして、よう売れましたよ。



未知の酒

「夢・BUSON20実行委員会」

大阪・淀川市民マラソン

都島は江戸中期の俳人、与謝蕪村の出身地です。ご存知ですか？1996年には蕪村生誕280年だったので、蕪村で地酒、地ビールを作りました。しかも都島区限定商品です。北区の百貨店から引き合いがありました。都島にこだわって断りましてね、これは商売的には失敗でした。(アハハ) そのころ地域の活性化、まちおこしのための「ふるさ都・夢づくり協議会」を設立し、今日に至っています。

ところで、松尾芭蕉が東の横綱なら与謝蕪村は西の横綱ぐらいですよ。それなのに資料館もない。あるのは石碑だけです。「蕪村生誕の地」、石が立っているだけです。「大阪は文化や」というなら、酒だけじゃなくて、ミュージアムを作ろうという機運に盛り上げていったんです。蕪村生誕の地は都島の毛馬にあります。ですから旧建設省にこの土地を提供してもらい、建物は大阪市に建ててもらおうと考えました。そのためには、2年ごとに変わるようなお役人を相手にしては仕方がない。20年後、300周年の完成をめざして大阪市にも参加してもらい、国と共同事業をしようと考えて始まったのが大阪・淀川市民マラソンです。このマラソンは、国土交通省近畿地方建設局淀川河川事務所が共催で大阪府、大阪市の後援をいただいています。



大阪・淀川市民マラソン

第二のこだわり「前例主義」

前例は作るもの

私のこだわり「日本初」はこのマラソンにもありません。当時ランナーの周りを走っていた車はガソリン車です。レース中に撒き散らされた排ガスをランナーが吸っているわけです。そこで、運営車両はすべ

で電気、ガスの自動車にしました。もうひとつの「日本初」は、市民マラソンとして8時間の運営をしました。ランナーにとってはゴールをきるというのは感動なんですね。ですから、初心者でも楽しんでもらえるように8時間にしました。時間内に入ってもらったら完走賞もです。

淀川の河川公園も非常によくなっていますからランナーにも見てもらいたい、市民にも楽しんでもらいたいと思いましたが、運営時間を8時間にするために河川敷一本でやろうとしたんです。そうすると毛馬の淀川大堰を渡らんといかん。大堰は法解釈でいうと橋でもなければ、道路でもない。法律上は、人や車が通ることはおかしいわけです。それで、淀川工事事務所(現淀川河川事務所)にかけあって、なかなか大変でしたが、淀川市民マラソンのランナーだけは通れるようになりました。そういう前例を作ったから今大堰が利用できるようになったんです。これが私のこだわりの第二、前例を作るという「前例主義」です。



淀川市民マラソンを走る谷川真理さん

第三のこだわり「継続」

入り口は遊び、出口は文化

さらに私のこだわりの第三は「継続」です。このマラソンは11月に第7回を迎えることができました。「入り口は遊びで出口は文化」というのが私の口ぐせですが、入り口はワワァいうて遊んで気楽に考えて、それが「継続」することによって文化になるよ、文化として残ると考えています。ですから、私たちは一過性のイベントはやりません。私たちはボランティアの団体です。ボランティアというのは本業を持っていて余暇の時間でお手伝いをしてもらうわけですから、継続して一つの目的に向かってやっていくというのはなかなか大変なことです。おもしろかったら人は継続しないんですよ。常に面白いことをやっていこうと考えています。そして、行政を巻き込んで行政とともにやるというスタイルです。そのときに行政からは一円ももらわない、というのが私の考え方です。「前例を作る」という活動スタイルは、法律の拡大解釈とかいろいろと行政に迷惑をかけることもあります。お金をもらおうと無理をいえませんから、向こうが「やる」というも「いらん」という変な団体なんです。

会長さんのこだわりはよくわかりました。さて、いよいよ現在の課題ですが、道頓堀川で真珠の養殖というのは、可能なんですか？

水都再生基金

真珠貝のオーナー募集！

二枚貝というのは浄化能力があるということはある程度知っていました。仲間とワワァ話していた時に「アコヤ貝は水のきれいなとこでないとアカンねん」「川にも真珠はあるで」という話が出たんです。これは面白そうやなと思いました。すぐに、琵琶湖の業者に電話をしていろいろと聞いたりして、人のよさそうな養殖業者のおちゃんを巻き込んで道頓堀で真珠を養殖しようという話になっていきます。道頓堀でできるかどうか実験しようと、大阪市には内緒で貝を入れておきました。大丈夫ですよ、生きています、大きくなっています。「イケチョウガイ」という、水中の窒素やリンを取り込んだプランクトンのケイソウやその死骸を食べて大きくなる貝です。1日に18リットル缶10数個分の水を浄化するほどの優れた浄化力を持っています。淡水真珠を育成する貝です。



2003年の正月には「水都再生基金」と銘うって、このイケチョウガイのオーナーを募集しました。3年後に引き上げた自分の貝の真珠を手にするために一口5000円で1個のイケチョウガイのオーナーになってもらいます。ペアで真珠がほしい人にはペアで仕込みますから7000円、3年後の真珠を楽しみに待つと同時に、川の水質も改善されるという楽しみもある。そういうプロジェクトです。私のこだわり「継続」です。

このときにも、河川法がネックになりました。河川法に占有というのが条文にあります。占有というのは公共団体しかできません。そこで、法律の拡大解釈をしてもらって、ある社団法人に許可してもらうことになりました。「前例主義」ですね。私たちは前例を要求しますが、その前例を許可する行政の担当者がいなければどうにもなりません。その担当者が判子を押してくれて初めて前に進んでいくわけです。

Re:水都

取り戻そう水の都。大阪の川が再び市民が憩え、ふれあえる水辺になることを願って記事のタイトルとしました。

有償のきっかけ作り

川に関心を持ってほしい

水道の蛇口をひねると飲料水が出るというのは、日本だけです。私たちはものすごく贅沢をしているわけです。私はNPOですが、お金を取ります。もちろん私たちの団体に運営資金も必要だということもありますが、水というものに対して「無償」という考え方がおかしいと考えているからです。河川が汚れている、都市河川は宿命的なものがあって、汚れている。それをきれいにしようとしたらお金があれば簡単なんです。下水道を合流式から分流式にしたらええ。それには、道頓堀川だけで260億円かかるといわれています。東横堀川を入ると3000億円だとか。しかし、私も含めた市民・府民の意識改革をせないかんと考えているわけです。川の整備の財源を負担するべきだと思っています。たとえ、分流式にするとしても流域住民の意識改革は必要です。阪神大震災の長田の大火で、「水があったら...」「水は大事や」と思った人は多かったと思います。でも大半の人は忘れてしまっているんですね。川に関心もないのです。私たちの活動は川に関心を持ってもらうためのきっかけ作りです。水陸両用車にしても、道頓堀川水泳大会にしてもそのためのきっかけ作りなんです。



水陸両用車「かっぱ2号」



ミニ2

道頓堀川水泳大会

平成16年8月8日

これは冗談ではないですよ。やります。ただしウエ

ットスーツを着て。(笑い)真珠貝を入れにいった時、この川で泳ぐんか!と、思いましたよ。医者も用意しています。それでもします。これで川がきれいになればいいんです。水泳大会は歴史に残りますよ、そして「継続」します。2回3回と続く中でウエットスーツが取れていったらそれでいいんです。大阪人はせっかちやから結果を見たいかもしれませんが、結果は孫子の代まで待ってください。つい90年位前には「そうめん流し」ができたんです。きっとまたできるようになります。ボランティアのお医者さんよろしく!



水泳大会カウントダウン

第四のこだわり「日本一」

ナンバーワンを目指して

大阪市のマークを知っていますか? みおつくし(湊標)というのは、水路の標識のことです。明治28年にこのマークが大阪市のマークとなったのは、それまでも、それ以後も大阪は川で発展する町だと考えられたからです。これからの戦争は水をめぐって起こるといわれています。世界中で8秒間に子どもが1人、水のために亡くなっているといわれています。今こそ、身近にある水、川を考えるときだと思っています。NPOは「金を取ったらいかん」というものではないのです。非営利ではあるけれど、年商10億、100億の「日本一」のNPOをめざします。それくらいにならないと社会に対する影響力はないでしょう。最後の私のこだわり「日本一」です。きっと実現させますよ。



お話をうかがって、大阪の川は蘇るんだ!水都再生!という気分になってきました。本日は長時間ありがとうございました。

編集委員:株式会社建設企画コンサルタント 山田麻由

インタビューを終えて

「道頓堀川で真珠貝の養殖」「道頓堀川水泳大会」「大阪・淀川市民マラソン」・・・人々の意表をついてきたこれらのイベントを知らないという関西人は少ないであろう。その仕掛け人が、なんと水陸両用車の持ち主でもあるという。水陸両用車を操る男といえば映画「007シリーズ」のジェームズ・ボンド、というのが定説である。それが、「浪速のジェームズ・ボンド」須知裕曠氏にインタビューさせていただくことになるきっかけであった。頭に思い描いたことを次々と実現するそのバイタリティは、任務遂行に向けて邁進するジェームズ・ボンドのそれに匹敵するのではなからうか。お話の中に次から次へと出てくる「不可能を可能に変えていく」様は、困難を次々と乗り越えていくジェームズ・ボンドさながらであった。たとえジェームズ・ボンドに触発されようと、諜報部員になることは想像の域を超えているが、須知氏の活動に触発されて川に関心を持つことは決して難しいことではない。孫子の代に「そうめん流し」ができるような川がある「水都」を再生する、気の長い話ではあるけれど、ぜひ実現しようではないか。須知氏の次回の企画は、「透明自動車」(シリーズ最新作「007/ダイ・アナザー・デイ」)ではないかと思ったが、結局聞かず終いであった。

水陸両用車 (未知普請号) 試乗レポート



編集委員:中央復建コンサルタンツ株式会社 林直美

10月某日、大阪市中央公会堂前から、水陸両用車(未知普請号)に試乗しました。この車は、近畿地方整備局が進めている「未知普請」活動の広報車として子どもたちから大人まで広く啓発するため、各地域で広報活動を行っているようです。

アメリカ製はデカイ!

ブルーのボディに赤字で「未知普請」という文字が描かれており、なんともデカイ。後方中心下部には、スクリューがついている。水中に沈んだ時、タイヤはどうなるんだろう?あれこれ考えながら車内に乗り込んだ。後の説明によると、タイヤはぶら下がったまま浮いているそうだ。車内には既に小学生たちが乗り込んでいて、ワイワイガヤガヤ少し興奮気味に楽しそうにしていた。原産地アメリカというだけのことはあり、シートのクッションも高くて硬い。横幅もKONISHIKIサイズとまでは言わないが、広い。足元にはライフジャケットの座布団版のような物もちゃんと備わっていた。



スクリュー部

道を走る船で~す!

この車に、窓は無い。手すりのような棒があってそれで屋根を支えている。陸地を走るバスの時は手すりが、水上を走る船の時は開口75cm以上の空間が必要なのだそうだ。そして、雨天時は天井側に畳み込んでいるビニールのカーテンを下ろして広げるのだ。このカーテンをつける許可を取るのに3ヶ月かかったそうだ。この車は、市バスより高い位置から見下ろして行く。ちょっと優越感。街行く人はこちらを見あげている。ド派手なドデカイ妙なバスに乗った小学生たちが沿道の人々に叫んでいるのだ。「これは、船で~す」って。そんな街の人の反応と車内の小学生たちの様子を楽しみながら、都心の渋滞道路を桜ノ宮公園めざして進んでいった。



陸地を走ると注目の的

水に浮かぶバスで~す!

ついにその時がやってきた。何といっても水陸両用バスの醍醐味は入水と上陸の瞬間であろう。川へ



右から 谷口近畿地方整備局長、山田、林の両編集委員、須知会長

向かってスロープ状になっているところから滑り入るのだ。『1、2、3!』瞬間に大波がザブーンとたち、2m四方で見ていた人たちが大慌てで逃げていく。急流滑りの小さい版と

いったところだ。水に浮かんだと思った瞬間、水面が近づいてドキッとした。船が沈没する瞬間ってこんな感じなのだろうか。浮かんでしまえばバスから遊覧船へと早変わり。岸から見るとちょっと危なっかしかったらしいが、当の本人たちはユラユラと揺られ、水面の風が心地よかった。公園のベンチで一服しているサラリーマンや散歩中の人、デート中のカップルまでもが手を振っている。ここまで陸地を走ってきたなんて一体、誰が気づいているのだろうか、隣で浮かぶアクアライナーを見下ろしながら思った。そして、ここでもまた、子供たちは叫んでいる。「これは、バスで~す。」って。



水に入る時には歓声上がる

しばらく水上散歩を楽しんだ後、「ヨーイショ、ヨーイショ」の掛け声とともに上陸。水圧の関係もあるのかバスもちょっとしんどそうだった。帰り路、やはり子どもたちは叫んでいた。今も昔も子どもたちは変わってない。この子どもたちが将来どう水と係わっていくかは分からない。しかし、私たち、今の大人が何かをはじめなければ未来には続いていかない。脈々と流れるこの川のように...

この取材にあたり、ご尽力いただいた近畿地方整備局の関係者をはじめ、ご協力いただいた皆様に感謝いたします。

未知普請: かつて道も川も、地域社会を支える暮らしとコミュニティーの場として「普請」の精神で守ってきたものです。原点に立ち戻り、行政も地域の人々も一つとなり、心と心を繋ぎ、力を出し合い、将来の地域・国土を創造する。そんな願いを込めた道ビジョン策定と事業プロセス再設計を目的とするプロジェクトです。



楽しい乗り物に子どもたちも感激



プロフィール

桂 米左 (かつら よねざ)

昭和40年4月 大阪市に生まれる
 昭和59年3月 桂 米朝に入門
 昭和59年6月 京都 金比羅会館「米朝落語研究会」にて初舞台
 平成10年～ 東京・大阪で年一回「桂米左独演会」開催

趣味： 歌舞伎・文楽鑑賞、昔(明治・大正)の歌を聴くこと、水泳
 特技： 書道六段、見世物小屋の口上、邦楽囃子望月流名取

本人より一言： 落語だけでなく、兄弟子である吉朝とともにアニメーションの元祖ともいえる「錦影絵」を継承しています。判り易い落語、お客さんを落語の世界へいざない、帰り道に「あー楽しかった、来てよかった」と言ってもらえる舞台を目指しております。それには先ず米左を見て下さい。聴いて下さい。好き嫌いをなさらず一度ご賞味の程を。意外とお口に、いやお耳にあうかも・・・。

インタビュー： 井上恵太編集委員 (株式会社ニュージエック)

「落語と川」。落語の中にも大阪の川がたくさん出てくる。そもそも落語の世界って？天六、本庄で生まれ育ち、内弟子に入るときに、初めて淀川を越えて住んだという、生粋の浪花っ子である、落語家桂米左さんに聞いた。

小学2年生で落語のとりこ

どうして落語家になろうと？

小学2年で初めて落語をみたんです。「道頓堀アワー」って知ってはります？初めてみたのが、師匠(桂米朝さん)の落語だったんですわ。それから落語が好きになって、盆や正月は角座や花月へ母親に連れていってもらいましたねえ。中学時代は、自分で情報誌で探して、寄席なんかを見にいきました。当時はよくあったんです。月に20日も通ったこともありましたよ。そんなけ行ったら、見物料や交通費もばかになりませんでしたけど。中学校の卒業文集にも、将来は噺家になると書いたはずですわ。ずっとその思いは続いて、高校を卒業してすぐに、師匠のもとに内弟子に入ったんです。

そうすると、ずっと思い続けてなった職業ということですね。うらやましいですね。

有り難い。夢がかなった。夢だけにしといたら、よかったですけど。(笑)

忘れられぬ師匠からの手紙

どうやって落語家になったのですか？

師匠に手紙を出したんです。高校の国語の先生が、師匠の息子である桂小米朝さんと大学の同級生だったということから、住所をこっそり教えてもらったんですわ。そして、思いを書きつづって出した手紙に、師匠から返事がきたんです。「冠省 お手紙拝見しま

した。入門のことはやはり人生では最大のことで、一度面談にて話をいたしましょう。目下、私非常に多忙にて、お時間はお電話にてお知らせいたします。(以下、手紙の文面。完全に覚えている米左さん。うれしくて何度も読み返したんでしょうね。)ご両親にもよろしくお伝え下さい。」

全て覚えてらっしゃるんですね。

今でも大事にとってあります。これが、読みにくい字でねえ。(笑)慣れないと読めないんですよ。

師匠はどんな人ですか？

何でもよう知ってはります。百科事典のような人ですわ。聞いて知らんことはほとんどないですね。でも知らんことは知らんといひますね。そこがまたすごいと思います。

ほかの道は考えなかったんですか？

高校でまわりはみんな就職活動してましたけど、一切しなかったですわ。2月に卒業、3月に入門。入門を断られてたら、ほか(他の師匠)は考えてませんでしたから、落語以外のことをしてたんとちゃいますかねえ。よう、弟子にしてくれたと思います。住み込みで師匠につくんですわ。朝は毎日7時からで、休みは基本的になし。師匠が何日か地方へ行くような時だけ、家に帰してもらいました。掃除や犬の散歩、仕事の段取りなどを手伝って、合間に稽古してもらってます。でも、弟子にとるほうはもっと大変ですよ。

落語は口伝え

稽古はどんなふうにするんですか？

台本みたいなもんはないんですよ。口伝えです。長い話を、区切りながら師匠が何度も話してくれるん

ですけど、そんなん覚えられませんよ。メモや録音もだめ。教える方が大変ですよ。何人が一緒に稽古してもらいますけど、一人一人順番に違う話を教えてもらってます。自分が教えてもらう話だけじゃなくて、人が教えてもらうのを見て、それも覚える。面と向かって話してもらより、人が教えてもらってるのを覚える方がいいということはあるですね。

どのくらいの落語があるんでしょう？

米朝落語全集というのがあって100以上の落語が載っています。載っていないものもありますから、300とかそんな数でしょうね。

そのうち米左さんはいくつくらい...？

はっ？そりゃまあ。いいじゃないですか。(笑)60くらいはできるかなあ。

ハンサムな米朝さんは、かつてはアイドルのような存在でしたが。

普通のおじいちゃんですよ。酒飲みでよく話す。(笑)元気ですよ。どっか悪いんちゃうかっていうくらい。(笑)一緒に飲んだ翌日は、師匠はけろっとしてるんですけど、こっちは一日つぶれる。まあでも、稽古とか厳しいときは、ほんま厳しいです。なかなか覚えられないで、「頼んできてもらったわけやないし、まだ若いねんからいくらでもつぶしきくわ。」なんていわれたときは、へこみましたね。

やめたいと思ったことは？

落語家になって後悔したこと、これはないですね。楽しい。うけた時の快感は忘れられない。その経験がないと続けるのはつらいかもしれませんね。こんだけうけて、こんなに笑ってもらえたら、もう何もいらなと思いますよ、ほんまに。それと、この歳になっても怖い人間、怒ってくれる人間がいるというのは幸せだと思います。すごく怖くて尊敬できる人が師匠というのは幸せなこと。1億2000万人分の20人の幸せな人間だと。

たくさんの落語にでてくるなわの川、橋

ところで落語はどうやってできるんですか？

全て作られた話です。地名は実名もたくさんありますけど、話は全部作ったものなんです。原典があつてアレンジをしたりするんですけど、300年前からあるものもあればこの間できたものもある。最近できたものでも、古典を踏んでるものもあれば、60年から100年前のものでも古典じゃないというものもある。

なわの川の出でくる話もあるんですか？

川に関するのも、たくさんありますよ。「遊山船」、



浪花の川にかかる多くの橋

「船弁慶」、「野崎参り」とか、大川が舞台になった「百年目」という話。これは師匠の十八番で、お花見の時とかに話してくれるんですわ。正直いって私は川とか水の話は得意じゃないんですけど。(笑)川原のことは「浜」ということが多いんですが、住友の浜っていうのが有名ですね。住友さんのお屋敷があったその前が住友の浜といった感じで。橋の出でくる話も多いですよ。本町橋とか。本町は河童が出るといわれた、寂しいところだったんですわ。落語を聞くことで昔の様子がわかります。落語は昔の様子や風俗とかも伝えていかなければならないようになっています。その辺は漫才との違いでしょうか。「水屋の富」という話では、大川の水を売り歩いていたことがわかります。今では大川の水を飲むなんて考えられませんがね。

「遊山船」は、暑い夏の夜の話です。落語に語られる時代にはエアコンはありません。仕事が終わったら、タライに水を張って行水をすませ、大川べりへ涼みに行く、という設定です。難波橋へ夕涼みに出かけた喜六さんと清八さん、橋のあたりには夜店も出て、賑わっています。橋の下も屋形船で賑わっています。そんな大川べりで展開される話ですが、川が涼を感じるところ、ちょっとした温度差に涼を感じることができるという贅沢な時代だったんですわ。(末尾参照)「船弁慶」も夏の夕涼みの話です。謡曲の「船弁慶」が下敷きになっています。いつも友だちのおごりで遊んでいる喜六さんが、嫁のお松さんに内緒で、思い切って割り勘で舟遊びに繰り出す。船の中で酒を

思っきり飲んで、禪一本で踊りだしたところを難波橋に夕涼みにきたお松さんが目撃、「ちょっとあなたあ！」となるわけですが、この話には、通い舟で屋形船に漕ぎ寄せるというシーンが登場します。また、お松さんが川の中へ突き飛ばされて、腰あたりまでの川の中で濡れ幽霊よろしく立ち上がり、「平の知盛幽霊なありい・・・」と謡うんですね。きっと川はきれいだったんでしょうね。

「野崎参り」は曹洞宗福寿寺慈眼寺に参拝することで、春の祭礼には悪口を言い合い、勝った方がその年の縁起がええという奇習があって、それが落語の後半を占めています。おなじみの喜六・清八さんが船で野崎へ行きます。お手水船という、普段は畑仕事に使っている仕事船が、この時期、赤い毛氈敷いて野崎まで二人を運びます。途中で「出すのん忘れてきた」と船べりから握り飯の竹皮

を使ってオシッコをしたりするんですね。なんともどかというか...。でも、川でオシッコとか子どもの頃しましたよね。誰が遠くまで飛ぶかとか...。失礼、女性がいたんですね。(笑)

「百年目」は、大川堤の桜の賑わいがよくわかる話ですね。師匠は難しい話として挙げていますが、番頭次兵衛さんが内緒で花見に行き、主人にバッタリ会ってほうほうの体で逃げ帰るというお話です。東横堀の高麗橋から屋形船に乗り込んで、大川、桜ノ宮に近づくと満開の桜、つい太鼓持ちに促され、岸に上がってしまったのが「百年目」。典型的な船場の大店の話ですね。旦那と番頭の微妙な関係、心の使い合い、演じる方はなかなか難しい



今の大川堤の桜(桜ノ宮)

ですが、サラリーマンの方にはまた、なかなか聞きごたえがあるかもしれません。どの話もぜひ高座で一度お聞きになって下さい。

東京にも落語はありますか？

京都・大阪・東京で発祥はほぼ同じ、300

年くらい前ですね。大阪などを舞台にした上方落語と東京落語は元は一緒なんです。7割方言は一緒で地名とかを東京に直してるんです。大阪の方が笑いが多くて、東京の方は人情話が多くて、あまり笑がないんです。大阪はもともと大道芸やったんです。お囃子を入れたりして。いかに楽しんでもらうかということを考えてんです。東京は「笑わせよう」というより「お話しよう」という感じで、だいぶ違うんですよ。京都と大阪は一緒ですね。

落語と普通の話との違いはなんですか？

落語はすべて会話で話を進めるんですわ。説明とかではなしに、人となりとかどういう人であるかを会話で明らかにしていく。だから演技力が大事です。

落語に描かれるような、生活に密着した川に

そうした落語に描かれるなにわの川と現在の川はだいぶ違いますね。

そうですね。コンクリートがいっぱいですがもんね。だんだんとコンクリートではなく昔の様子に戻すように変わってきているようですが、道頓堀川も川沿いを歩けるようにとか、考えているようですが、もうちょっと水がきれいにならないとね。「百年目」いう話でも、高麗橋からトントントンって降りて船に乗るといふくだりがありますけど、今じゃ無理。本町橋が出てくる「商売根問」という話では、河童を釣るゆうて、尻子玉見せて河童釣ろうとしてたら黒山の人だかり...なんてのもあります。川は生活に密着していたんですね。落語作るうにも今の川じゃそういうネタにならない。川というより溝ですわ。

米左さん自身はどうですか？

私自身は、小学校の頃、淀川が近かったから良く遊びにいきましたね。でも汚い。台風とかの後にいったらいろんなものが流れていた。忘れられへんのがブタ。あの様子は忘れられません。



どんな川が理想ですか？

落語の作れるような川にしたいですね。落語聞いても今の川じゃイメージがわかりません。今落語作っても川は題材にならないですよ。昔は暑かったら大川に涼みにいこか、ということになったんですけどね。今じゃ汚くてむせそう。魚を逃がそうと川へ行っても、どこから放します？川に近づけないじゃあないですか。橋から投げなあかん。川岸に下りて、川遊びなんてできない。はまったら危ない、そんなんおかしいですね。もっと人と川が触れ合えるような、ウナギやシジミのぎょうさんとれるような川がいいですね。

そんな川に少しでも近づいてほしいですね。そうだったら、川とふれ合う米左さんの新作落語を聞かせていただけるかもしれませんね。今日は楽しい話をありがとうございました。

落語の話になると真剣な目つきに、師匠の話題になると実に楽しそうに話す米左さん。最近なかなか見ることの少なくなった落語に新たな興味がわきました。大阪市内のお寺などでも、ちょくちょく落語をされているそうなので、一度いってみようと思います。

落語会等についての情報は、米朝事務所の公式サイトをご覧ください。
<http://www.beicho.co.jp/>

落語ひとこま

「遊山船(ゆさんぶね)」

夏の暑い夜、難波橋(大阪の堂島川と土佐堀川にかかる橋)に夕涼みに出かける若い衆二人。橋にさしかかると、川には屋形船が賑やかに行き交う。

「きれいなオナゴが乗ってるな」「あら、芸衆やがな」「あ、そうか。広島の人やな」「アホ、芸者のことをしゃれて芸衆ちゅうねん」「ほな、こっちにいる舞妓がマア衆で、あっちにいる仲居がナア衆か。あそこに座ってる男はなんや」「あれはキャアや」「キャアてなんや」「客や」...

川上から下ってくるひとき賑やかな船をひょっと見ると、女が一人。碇いかりの模様の浴衣を着て、うちわを片手に、なんともいえずアダな姿。

「ワー、本日の秀逸や。これ、ほめたる。エー！出来ましたな。本日の秀逸！みればきれいな碇の浴衣」すると女が「川に落ちて流れんように！」「へー、しゃれたこと言うな。おまえが呼びかけたら、とっさに答えた。うちの力かでは、とてもあんなこと言えんわい。」「今日はええもん見せてもろた。もう帰る帰る」

家に帰って女房にその話をして「おまえ、そんな、イキな台詞、よう吐かんやろ」「そんなもんくらい、ワテでも言えるがな」「そうか、そういうたらウチに碇の浴衣があったな。祭りの揃えのん。あれ出してこい」「あんなもん、どこへ行ったらやわからへん」「探してこい」「ボロボロになったアがな。シミがついてるで」「かまへん。おまえ、ちょっと船に乗り」「船でどこにあるねん」「タライ持って来い、船の代わりに。それでワシ、屋根へ上って天窓からのぞいて、ほめるさかい」「そんなあほなこと、しなはんな」それでも、上へ上って「見ればきれいな...。義理にもほめられんな。着てるヤツが着てるヤツやし。またあの浴衣の汚いこと...。見れば汚い碇の浴衣」するとヨメはんが「質に置いて流れんように」

参考図書：米朝ばなし-上方落語地図(講談社文庫)

現代版遊山船「アクアライナー」



「大阪城・中之島めぐり」として、四季折々の風情のある大阪・大川を周遊。いくつもの橋をくぐりながら歴史あふれる大

阪の名所・旧跡の散々を川面から大阪散策を楽しめます。夜はライトアップされた大阪の街をトワイライトボートで満喫できます。

コラム

「扇子」と「手ぬぐい」



落語で使われる小道具は扇子と手ぬぐいだけです。落語家の間では、「扇子」は「かぜ」、「手ぬぐい」は「まんだら」というのだそうです。「扇子」は箸、筆、釣竿、げんのう、小刀、槍、煙管、扇子、広げて使えば、手紙、大盃、半分広げて、お銚子、お面(「百年目」で番頭さんが船から上がる時に半分広げて顔を隠します)、と実にいろいろなものに変身します。「手ぬぐい」は、本、煙草入れ、財布などに使われます。いずれにしてもその演技力は、たいしたものですね。

「武蔵」の 生誕の地を 訪ねて

株式会社 ナンバ
常務取締役 前廣 義晴



昨年、NHKの大河ドラマ「武蔵」が放映されていましたが、武蔵については、その伝記に不明な点が多く、出生地や没年も謎にまつまれています。

武蔵自身が書いた「五輪書」には、「生国播磨の武士」と記していますが、その他の説もあります。次に示す説が一般的に流布されています。

(1) 作州説

一般によく知られているのが、長編小説、吉川英治著「宮本武蔵」に記されている作州説です。

出生地は作州讚甘村宮本といわれ、現在の岡山県英田郡大原宮本である。(交通：JR山陽本線「姫路」駅よりJR上郡駅経由 智頭急行「宮本武蔵」駅下車すぐ)

大原町は盆地にある宿場町で、中央を吉野川が流れ、川向には武蔵の父、無二齋が仕えた新築家の竹山城があった。駅南へ約1kmには、武蔵神社並びに「宮本武蔵生誕地」がある。生家跡は、現在、無二齋の弟の子孫である平田家となっている。



太子町宮本にある「宮本武蔵生誕の地」の碑

(2) 播州宮本説

宝暦12年に書かれた「播磨鑑」に、「宮本武蔵は揖東郡鶴の庄宮本村の産地」と記されている。現在の兵庫県揖保郡太子町宮本である。

(交通：JR、山陽電鉄「姫路」駅より、JR山陽本線「網干」駅下車、徒歩20分)

武蔵が晩年の著書「五輪書」には、「生国播磨の武士」とははっきりと書かれており、武蔵自筆の資料として信頼性の高いものです。

現在、太子町宮本には、「宮本武蔵生誕の地」の碑が、宮本児童公園内に建てられている。また、その東隣には武蔵の生家と伝えられている屋敷跡がある。



棟札が残されている加古川市の泊神社

(3) 播州高砂説

武蔵の養子、伊織が加古川市の泊神社に献上したとされる棟札が残されており、武蔵が播磨の生まれであることが記されている。また、宮本家系図によると、武蔵は播州南郡河南

庄米墮邑で赤松一族の田原家に生まれ、美作の宮本村に住んでいた同じ赤松一族の平田家に養子に行ったと伝えられている。

現在の兵庫県高砂市米田町米田であり、宮本武蔵・伊織生誕の地の碑が米田天神社の南に建立されている。また、泊神社は、武蔵が亡くなった8年後、当時、小倉藩小笠原家家老であった伊織が武蔵の供養と一族の繁栄を願って郷里にある泊神社の社殿を再建したとされている。また、米田天神社は、泊神社の分霊神社であり、伊織が泊神社を修復した時、そこにあった旧殿をゆかりの地である米墮邑に移転建立したと言われている。(交通：JR山陽本線「宝殿」駅から徒歩10分)



米田町米田にある宮本武蔵・伊織生誕の地の碑

宮本武蔵は、13歳で初めて決闘して以来、諸国を巡って数々の決闘をした。そのなかでも、一番有名なのが武蔵29歳の時、舟島(巖流島)において佐々木小次郎と決闘する場面です。その他、京都一乗寺下り松での吉岡一門との戦い、伊賀の鎖鎌の使い手、穴戸梅軒との戦い等、勝負に一度も負けたことがなかった。しかし、晩年は五輪書をはじめ、兵法三十五箇条や書画、木彫なども極められた。

兵庫県には武蔵に関するゆかりの場所がこのほかにも、姫路市、明石市、龍野市、出石町、佐用町があります。皆さんも武蔵が旅した地を一度訪ねてみてはいかがでしょうか？

京都の大仏と秀吉

株式会社 エース
相談役 安田 勝美



豊国廟

方広寺の鐘と大仏

秀吉は、1588年に刀狩りを行った。その口実が戦没者菩提のため木造の大仏を方広寺に作り、その仏体に打ち込む鉄釘のためにということであった。

63尺(19.1m)の大仏は完成したが、寄木の手法では像の安定が困難であったのか壊れてしまい、そのまま放置されていた。

関ヶ原の役で家康の支配するところとなり、豊臣家は大阪で六十万石の大名に転落したが、家康にとって安泰でないのは豊臣が貯えた黄金の力であった。そこで、家康は、秀頼と淀君に秀吉の意志を継ぎ、秀吉墓前の供養を兼ねて大仏を銅像として再建することを勧めたのである。

力を失っていた秀頼は、いやともいえず、63尺の大仏を作りあげた。

奈良の大仏より10尺は高いことになる。今日まで残っていたら、奈良の大仏と比べてどのような評価を得ていたであろうか。

家康は、さらに、鐘を作らせた。その銘文に歴史上も有名な「国家安康、君臣豊楽」の8文字が刻まれており、これを家康が「家康を祝い、



国家安康の鐘

豊臣家の再興を祈る呪文である。」との難癖をつけて大阪の陣がおり、豊臣家が滅ぼされたのである。

この大仏は、その後、家光の時代に分解され、銅貨に鋳直され、「寛永通宝」と呼ばれた。

通貨は、江戸時代の標準銭となり、物の大きさを測る単位にもなった。足袋の十文半は、寛永通宝を10枚半並べた長さということである。

その後、人々の寄進により木造の大仏が再建された。これは、顔から肩までの大仏であったが、惜しいことに昭和48年3月に火災で焼失してしまった。

大仏は3度にわたり建設されながらもなくなったが、国家安康の鐘は今も健在で、「国家安康、君臣豊楽」の字も鐘の内側に残っている。

豊国神社と豊国廟

方広寺の南隣に豊国神社がある。1598年、豊臣秀吉が亡くなったが、豊臣家は、死を隠して東山の阿弥陀が峰に葬り、社殿を建てた。

当時は、壮大な社殿であったが、豊臣氏の滅亡後に家康によって取り壊され、現在の社殿は1880年(明治13年)の再建である。

境内には、秀吉の夫人北政所を祭る摂社の貞照神社や伏見城の城門の一部を移築した唐門など桃山時代の歴史の一面が見られる。

阿弥陀が峰の方は、秀吉が葬られ

た翌年に、こちらにも壮大な社殿が造営されたが、今は、豊国神社の飛地境内となり、今日では、太閤坦と呼ばれ、廟務所と拝殿がある。

拝殿の奥の阿弥陀が峰に一直線の石段があり、登りきると秀吉の墓がある。高さ9mの五輪塔と石灯籠が囲いの中にある。

戦国の世に、多くの武将が京を窺い、天下に号令する名分を得ようとした。秀吉は、王城の地を守護する唯一の支配者であるとの思いで、同じ野望を持つ者を阻止しようと、都を見下ろす地を自らの墓地に選んだのではなかろうか。

京都駅からは、七条通りを東へ20分、京阪電車からは10分、博物館の手前を左(北)へ回ると豊国神社の大きな石垣が近い。この石垣の続きが博物館の敷地内で行われていた文化財調査で見つかり、創建当時の神社の壮大さが改めて認識された。



豊国神社の石垣と筆者

博物館の向かいには三十三間堂があり、すぐ東に神社仏閣の並ぶ東大路も近い。

博物館を左折するところに交番があるが、「大仏前交番」との看板があるのもおもしろい。

そういえば、子供のころの京都の地図に「大仏」の位置が描かれていたことを思い出す。



大仏前交番

フラメンコ



中央復建コンサルタンツ株式会社
計画系グループ 本郷 純子

初めてフラメンコを知ったのは、友達とのスペイン旅行で訪れたセビージャの夜だった。ガイドさんのおすすめに従って本格的なフラメンコショーを見せるお店(タブラオ)へ行き、初めてフラメンコというものを間近で見た。

それは、私にとって、衝撃的なものだった。こんなにも熱く、情熱的に、まっすぐに感情を表現する芸術が存在したのかと思った。舞台の上では歌い手とギタリストと踊り手それぞれが絶え間なく、リズムとメロディを織り重ねていく。踊り手の出す一瞬の合図を読み取って歌い手とギターが伴奏をつけていく。踊り手はバックの2人に支えられていた。踊り手が歌い手とギタリストに見守られながら踊っている雰囲気が羨ましかった。踊り手も歌い手もギタリストも入れ替わりながらショーが進んでいき、最後には全員そろってのフィエスタで幕がおりた。見終わってからずいぶん長い間余韻に浸っていたが、あの時漠然と、あんな風に踊れるようになりたい!!!と心に誓っていた。

旅行から半年後、どうしてもあのリズム、空気が忘れられず、とうとうフラメンコ教室に通いはじめてしまった。

最初は単純に週1回のレッスンに行き、基礎的なことを習うだけだったのが、いろいろな先生や仲間に出会い、歌のことも教わり、出会ったスペイン人やアーティストたちとの交流などを通して、踊るだけでは物足りなくなってきた。習い出して3年目ぐらいから、独学でのスペイン語学習、アーティストとのスペイン語会話、フラメンコの背景を学ぶ理論講座の受講、カホンという打楽器のレッスン、リズム練習、歌のレッスンなどなど、踊りだけに留まらず幅広くフラメンコを勉強するようになった。

そのうち、不思議なことに自然と同じようなフラメンコバカな仲間が出来てきた。そんな仲間といっしょに練習し

たりライブをしたりする面白さを知って、思いきって6年通った教室を辞めて自分の目指す形を追求することにした。踊る人、歌う人、弾く人、たたく人、声をかけて盛り上げる人、見る人・・・これを入れ替わり立ち替わりいろんな役を果たしながら楽しい時間を共有することが私の目標。

しかし、息を合わせるといのはなかなか難しいもの。楽しむためには仲間との練習や基礎知識の共有、その他、より良く知り合うための付き合いなども含め、時間をかけてじっくり積み上げていく必要があることがわかってきた。まだまだ舞台前のたった1、2回のリハーサルだけでは、一体感を味わい、見てる人にも十分味わってもらえるだけの基盤が築けない。

フラメンコの独特のリズム(1コンパス12拍、2拍子・3拍子・4拍子の組み合わせ)はもちろん、各曲で一般的とされるリズム変化の構成、ギターや歌の始まるタイミング、パルマ(手拍子)やハレオ(掛け声)での盛り上げ方など、まだまだ勉強すべきことがたくさんあって、面白くて仕方ない。

「フラメンコと赤ワインにはまったら結婚できないらしいよ」とは、最近友達から聞いた言葉・・・まさにそうになってしまいそうな予感。どっちにもはまっている私は致命的かも。だけど、フラメンコは人生の喜怒哀楽、生や死までもテーマとしているので、悔しいことや悲しいことがあっても、とことん悲しんだあと、その気持ちをフラメンコに活かして頑張ろうって思える。フラメンコのおかげで元気になれる。やっぱりやめられないフラメンコ。いつか最愛の人にめぐり合って幸せをかみしめて、それを踊りに活かせるようになるといいなあと思う今日この頃・・・。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。これからは、寒くなると同時に建設コンサルタント業界は業務多忙となる時節となりますが、身体だけはお互い気をつけましょう。

さて、「クリエイティブ」の発行も4年目になりました。スタッフ一同、これからもタイムリーな話題、建設コンサルタントに関連する事からなどを中心に、「おもしろい」、「記憶

に残る」、「業界PR媒体としての機能」を念頭に編集業務を行っていく所存です。

また、記事づくり、話題といった点では、会員会社社員の皆様の協力が必要となります。特に、会員交流は会員会社の社員皆様のコーナーです。積極的な参加をお願いします。

= 会誌等編集委員会 編集委員長 今村 克己 =

(社)建設コンサルタンツ協会近畿支部 会員名簿

福井県	(株)橋梁コンサルタント 大阪支社 ☎06-6245-7277	大和設計(株) ☎06-6385-6101	(株)阪神コンサルタンツ ☎06-6543-0201
京福コンサルタンツ(株) ☎0770-56-2345	(株)協和コンサルタンツ 関西事業部 ☎06-6367-1635	玉野総合コンサルタント(株)大阪支店 ☎06-6452-9311	(株)ピーエムコンサルタント ☎06-6263-5061
(株)構造設計研究所 ☎0778-52-5125	協和設計(株) ☎0726-27-9351	中央開発(株)関西支社 ☎06-6386-3691	扶桑設計コンサルタンツ(株) ☎06-6533-6688
(株)サンワコン ☎0776-36-2790	近畿技術コンサルタンツ(株) ☎06-6946-5771	中央コンサルタンツ(株)大阪支店 ☎06-6268-2541	(株)復建エンジニアリング 大阪支社 ☎06-6838-3271
ジビル調査設計(株) ☎0776-23-7155	(株)近畿日本コンサルタンツ ☎06-6763-7131	中央復建コンサルタンツ(株) ☎06-6160-1121	復建調査設計(株)大阪支社 ☎06-6392-7200
(株)帝國コンサルタンツ ☎0778-24-0001	(株)近代設計 大阪支社 ☎06-6228-3222	(株)長大 大阪支社 ☎06-6541-5793	(株)ブレック研究所 大阪事務所 ☎06-6541-6161
滋賀県	(株)ケーエーケー技術研究所 ☎06-6942-6690	(株)千代田コンサルタンツ 大阪支店 ☎06-6441-0665	(株)間瀬コンサルタンツ 大阪支店 ☎06-6385-0891
アーステック(株) ☎0749-63-2096	(株)ケーシック ☎072-846-4641	(株)トニーコンサルタンツ 西日本支社 ☎06-6316-1491	(株)水建設コンサルタンツ ☎06-6946-6131
(株)石居設計 ☎0749-26-5688	ケイエムエンジニアリング(株)大阪支店 ☎06-6242-8074	(株)東永設計 ☎072-285-7701	三井共同建設コンサルタンツ(株) 関西支社 ☎06-6599-6011
キタイ設計(株) ☎0748-46-2336	(株)建設企画コンサルタンツ ☎06-6441-4613	東京エンジニアリング(株)大阪支社 ☎06-4791-0720	明治コンサルタンツ(株)大阪支店 ☎0727-51-1659
近畿設計測量(株) ☎077-522-1884	(株)建設技術研究所 大阪支社 ☎06-6944-7777	(株)東京建設コンサルタンツ 関西支店 ☎06-6100-0220	八千代エンジニアリング(株)大阪支店 ☎06-6945-9200
(株)新洲 ☎077-552-2094	(株)構造技研 関西支社 ☎06-6303-1280	(株)東建ジオテック 大阪支店 ☎0722-65-2651	(株)ヨコタテック ☎06-6877-2666
正和設計(株) ☎077-522-3124	構造計画コンサルタンツ(株)大阪支社 ☎06-6394-2711	(株)東光コンサルタンツ 大阪支店 ☎06-6282-6660	(株)横浜コンサルティングセンター 大阪支店 ☎06-6885-0964
京都府	晃和調査設計(株) ☎06-6374-0053	東洋技研コンサルタンツ(株) ☎06-6886-1081	兵庫県
(株)エース ☎075-351-6878	(株)国土開発センター 大阪支店 ☎06-6622-1451	(株)都市建設コンサルタンツ ☎06-6555-1661	(株)アキツ地建コンサルタンツ ☎078-261-9225
(株)キクチコンサルタンツ ☎075-462-5544	国土環境(株)大阪支店 ☎06-6448-2551	(株)中川設計事務所 ☎06-6302-7301	アサヒコンサルタンツ(株)兵庫支社 ☎0792-26-2014
(株)キンキ地質センター ☎075-611-5281	国土工営コンサルタンツ(株) ☎06-6243-3242	中日建設コンサルタンツ(株)大阪支社 ☎06-6363-3441	(株)カイヤマグチ ☎0792-67-1212
内外エンジニアリング(株) ☎075-933-5111	サンキコンサルタンツ(株)大阪支店 ☎06-6379-2022	(株)浪速技研コンサルタンツ ☎0726-23-3695	国際航業(株)関西支社 ☎06-6487-1111
(株)吹上技研コンサルタンツ ☎075-332-6111	サンコーコンサルタンツ(株)大阪支店 ☎06-6305-4531	南海カイツマ(株)関西支社 ☎0722-41-8561	(株)武仲 ☎078-231-2791
大阪府	(株)サンヨー ☎06-6787-3271	(株)日建技術コンサルタンツ ☎06-6766-3900	(株)ナンバ ☎0798-65-8681
(株)アーバン・エース ☎06-6359-2752	(株)三洋テクノマリン 大阪支社 ☎06-6746-3401	(株)日建設計 大阪 ☎06-6229-6399	(株)ニコス ☎0796-42-2905
(株)アイ・エヌ・エー 関西支店 ☎06-6885-6665	三和建設コンサルタンツ(株)大阪支店 ☎06-6358-1691	(株)日建設計シビル 大阪事務所 ☎06-6229-6399	(株)日本港湾コンサルタンツ 関西支社 ☎078-251-6234
(株)アサダ ☎06-6977-0055	ジェイアール西日本コンサルタンツ(株) ☎06-6303-6971	(株)日産技術コンサルタンツ ☎06-6944-0669	阪神測建(株) ☎078-332-5895
朝日航洋(株)西日本空情支社 ☎06-6338-3321	(株)修成建設コンサルタンツ ☎06-6452-1081	(株)日水コン 大阪支所 ☎06-6398-1658	(株)ワールド ☎06-6489-0261
朝日調査設計(株) ☎06-6357-5270	新構造技術(株)大阪支店 ☎06-6282-1281	日本技術開発(株)大阪支社 ☎06-6359-5341	奈良県
アジア航測(株)大阪支店 ☎06-6338-3751	新日本技研(株)大阪支店 ☎06-4706-7001	(株)日本建設技術社 大阪事務所 ☎06-6321-5567	(株)ケー・エスコンサルタンツ ☎0744-27-3097
(株)アスコ ☎06-6444-1121	(株)スリーエスコンサルタンツ ☎0726-73-5885	日本建設コンサルタンツ(株)大阪支社 ☎06-6453-3033	国土防災技術(株)関西支店 ☎0742-51-6950
(株)ウエスコ 大阪支社 ☎06-6943-1486	セントラルコンサルタンツ(株)大阪支社 ☎06-6882-2130	日本工営(株)大阪支店 ☎06-6449-5800	(株)シードコンサルタンツ ☎0742-33-2755
(株)エイトコンサルタンツ 大阪支社 ☎06-6397-3888	全日本コンサルタンツ(株) ☎06-6646-0030	日本構造技術(株)大阪支社 ☎06-6447-2800	和歌山県
(株)エミック 近畿事務所 ☎06-6344-2720	(株)総合エンジニアリング 大阪支店 ☎06-6647-8270	(株)日本構造橋梁研究所 大阪支社 ☎06-6203-2552	(株)中山総合コンサルタンツ ☎073-455-6335
応用地質(株)関西支社 ☎06-6885-6357	(株)総合技術コンサルタンツ 大阪支社 ☎06-6325-2921	(株)日本構造物設計事務所 大阪事務所 ☎06-6533-6621	和歌山航測(株) ☎073-462-1231
(株)オオバ 大阪支店 ☎06-6943-5161	第一建設設計(株) ☎06-6353-3051	日本交通技術(株)大阪支店 ☎06-6371-3843	和建技術(株) ☎073-447-3913
(株)オリエンタルコンサルタンツ 関西支社 ☎06-6350-4371	第一復建(株)大阪本部 ☎06-6453-4321	日本シビックコンサルタンツ(株) 西日本事業部大阪支店 ☎06-6309-7500	ワココンサルタンツ(株) ☎073-477-1115
開発エンジニアリング(株)大阪支店 ☎06-6201-5612	(株)大建技術コンサルタンツ ☎06-6396-3011	日本振興(株) ☎0724-84-5200	
開発コンサルタンツ(株)大阪支店 ☎06-6352-2813	大建測量設計(株) ☎06-6314-2800	日本テクノ(株) ☎06-6346-4466	
(株)片平エンジニアリング 大阪支店 ☎06-4807-1857	大成エンジニアリング(株)大阪事務所 ☎06-6990-4101	(株)ニュージェック ☎06-6245-4901	
川崎地質(株)西日本支社 ☎06-6649-2215	大日コンサルタンツ(株)大阪支社 ☎06-6838-1355	パシフィックコンサルタンツ(株)大阪本社 ☎06-6390-8450	
(株)かんこう ☎06-6935-6920	大日本コンサルタンツ(株)大阪支社 ☎06-6541-5601	(株)パスコ 西日本本部 ☎06-6214-6700	
基礎地盤コンサルタンツ(株)関西支社 ☎06-6536-1591	(株)ダイヤコンサルタンツ 関西支社 ☎06-6339-9141	(株)八州 関西支社 ☎06-6305-3245	